



エスコープ大阪機関紙

第227号

12

21.

.13

C o n t e n t s

表紙

・「グリーンシステム」は循環型社会のスタンダード

P2

・Rびんを利用・返却することでごみとCO₂を減らして地球を守る

P3

・活動報告 セっけん運動ネットワーク
全国交流集会／福祉コミュニティ／ライフプラン講座
・組合員紹介 関西W.Co連合会

P4

・「核燃マナーに依存しない地域の未来を考える学習会」報告
・理事会報告 ーRびん回収率
・おたよりネット ー編集後記

第一次 生活クラブ 2030 行動宣言

生活クラブはSDGsの理念に通じ、
かつ留まらない活動を実行していくことを約束します。



「グリーンシステム」は 循環型社会のスタンダード

持続可能な未来に向けて、生活クラブは「2030行動宣言」を掲げています。エスコープ大阪でもリターナブルびん(Rびん)に代表されるグリーンシステムの取り組みを強化して、昨年度からRびんの利用・回収をすすめるエスコープ大阪独自のキャンペーンを実施し、CO₂とごみの削減に取り組んでいます。今回は、生活クラブ連合会SR推進室室長であり、職員としてグリーンシステムに長年関わってこられた山本義美さんに、循環型社会のあり方についてお話を伺いました。

(聞き手:環境担当理事 山路 登葉)

※グリーンシステム:生活クラブで「1回で使い捨てる」ではなく「くり返し使う」容器などごみの減量に取り組むしくみです。
Garbage Reduction for Ecology and Earth's Necessity(地球生態系のためのごみ減量)の頭文字(GREEN)から名づけた。

循環型社会を左右するのは 「拡大生産者責任」

山路 リサイクル関連の法整備をすすめるなど、日本も循環型社会を目指して少しずつ動き出しています。国の施策についてどのようにお考えですか？

山本 「プラスチック資源循環促進法」が2021年に成立しましたが、15年以上遅れてようやく動き出したと感じています。EUなどではすでに生産者がモノを作る段階だけでなく、廃棄する段階に至るまで責任を持つ「拡大生産者責任」の考えが定着している国もあります。

日本では廃棄されるものは、自治体の税負担で回収することが当たり前ですが、お隣の韓国では廃棄物の回収にかかる費用も生産者負担です。自治体の税負担では、ごみの廃棄量に関わらず市民が一律に「税金」という形で間接的に負担するため、廃棄コストに対する意識が低く、3RのReduce(リデュース＝発生抑制)が生産者に促進されにくくなるという欠点があります。

山路 3Rは本来、Reduce、Reuse(リユース＝再使用)、Recycle(リサイクル＝再利用)の順に取り組めば、環境負荷も少なくて済みます。「拡大生産者責任」の考えが徹底されれば、適切な優先順位に従って3Rが機能するということですね。

リサイクルよりリユース

山路 3Rのうちリサイクルが中心の国の施策に対し、生活クラブが取り組むグリーンシステムをどのように評価されますか？

山本 グリーンシステムはリサイクルよりも環境負荷が少ないリユースを優先させたシステムで、取り組む組合員が変わっても25年以上継続して成り立っていることは評価できます。新加入者にはできるだけ早い段階でグリーンシステムについて伝え、理解してもらうことがRびんの利用と回収率のアップのカギであり、グリーンシステムを持続することにつながります。

グリーンシステムは海外からも 注目されるようになりました

山路 現在、生活クラブでは6種類のリターナブルびんを採用し、69の消費材で取り組んでいます。グリーンシステムの現在の到達点についてどのようにお考えですか？

山本 グリーンシステムは当

初、かつての牛乳配達のように地域内で循環させることを目指していました。組合員宅を個別に回って回収するという方法ですが、システムが成り立つよう回収方法を初期の段階で変更しました。次にびんの軽量化によるCO₂排出量の削減を実現するなど、改良を重ねながら現在のかたちになりました。

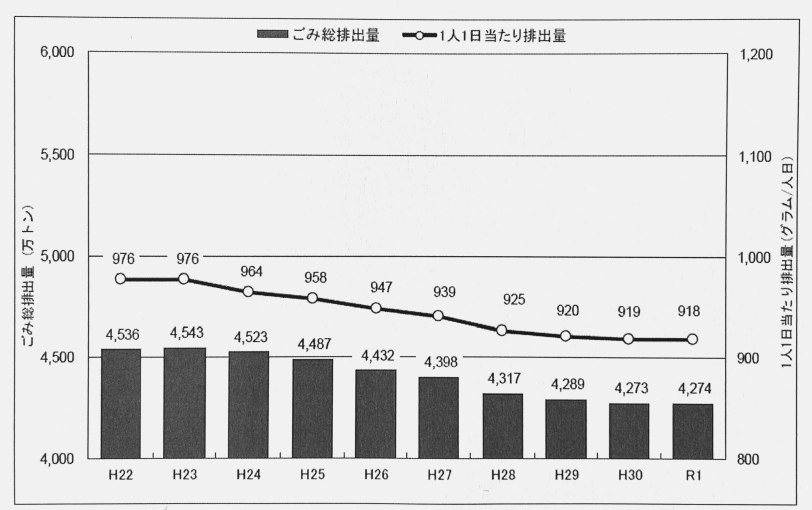
当初はRびんの取り組みをすすめることは、使い捨てが主流となった世の中の流れに逆行していましたが、今の環境への意識の高まりと共に、再び脚光を浴びるようになりました。ようやく、時代がグリーンシステムに追い付いてきた感じですよ。宅配業者から見学の依頼があったり、韓国の生協から新しい洗びん機を作りたいという相談があり、洗びん業者の「(株)ベ商事」と一緒に対応したり、グリーンシステムに関する情報発信の機会が増えました。

おいしい食べものはガラスびんに入っています。そのびんを回収してくり返し使えば使うほど、環境負荷を減らすことができます。びんメーカー、生産者、組合員、びん商、生協等のおおぜいのつながりで成り立っています。2050年温室効果ガス排出実質ゼロをめざし、グリーンシステムをすすめましょう。

山路 世界中にグリーンシステムが普及して、ごみとCO₂の削減につながればうれしいです。リサイクルよりもリユースを優先させたグリーンシステムの仕組みをこれからも自信を持ってすすめていきたいと思っています。

Rびんを利用・返却することで ごみとCO₂を減らして地球を守る

【図1】ごみ総排出量の推移



一人1日当たりのごみ排出量は微減が続いている

2021年度「Rびん回収率アップキャンペーン」を前に、8月28日(土)に生活クラブ連合会主催「グリーンシステム学習会」のオンライン開催がありました。講師に「北東京生活クラブ生協」の組合員で「容器包装の3Rを進める全国ネットワーク」運営委員長の中井八千代さんを招き、Rびんを使うことの意義をわかりやすく力強く教えていただきました。

<1970年代～1990年代の「ごみ」と「リサイクル」の歴史>

1970年代

高度経済成長でごみが急増 焼却を中心としたごみ処理。
最終埋立処分場のますますのひっ迫。
新聞・雑誌の集団回収や、先進自治体では缶・びんのリサイクルが始まる。

1980年代

缶飲料が3倍増
自動販売機の急増⇒リユースびんの減少

1990年中頃～

大型ペットボトルに次いで小型ペットボトルも登場し、プラごみの量がより増加。

高度成長期70年代からの
ごみの増加と処理
そしてリサイクルの歴史

2019年のごみの量は一人1日当たり918gと、少しずつ減っていますが【図1】、最終埋立処分場は厳しい状態が続いています。今のままの量のごみを出し続けたら、最終埋立処分場はおよそ20年で満杯になります。

ワンウェイ(2回のみ使用する)びんの
循環コストは41円なのに、
メーカー負担は25円なぜ？

Rびんは、約50回洗って繰り返し使えます。5回使ったと、CO₂を80%削減できます。Rびんのうち同一の内容物ではなく様々なものを入れて繰り返し使い回せるよう規格を統一したびんを「リターナブルびん」と呼びます。リターナブルびんの循環コストは30円でメーカー負担も30円ですが、ワンウェイびんのコストは41円なのに、メーカー負担は25円で、差額は税金が使われています。自治体が回収・選別保管の費用を負担しているのです。

リサイクルに至っては、総リサイクル費用の80%以上に税金が使われています。事業者(生産者・販売者)に販売までではなく使い終わったあとまで責任をもち、経費負担を求める「拡大生産者責任」が必要です。



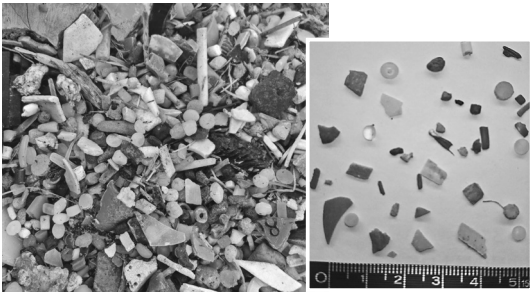
プラスチックの生産量は
1950年には
200万トンだったものが、
2015年には3億8千万トンに
まだまだ増え続ける!?

2050年には世界の原油使用におけるプラスチックの割合が20%となることが予測されています(Ellen MacArthur Foundation, 2016)。2018年の日本のプラスチックごみ(家庭ごみを含む一般廃棄物)429万トンの約8割が容器包装やコンテナ類で、容器包装のほとんどは使い捨てです。しかし、日本のプラスチックごみ総排出量は850万トン(2019年)で、プラスチックリサイクル率は

16%(輸出を含めても25%)です。半分以上の約60%が燃やされ、火力発電や温水プールなどに利用されていますが、CO₂の削減にはなっていません。世界で見ると、プラスチック廃棄物の40%が自然環境に流出(Pew Charitable Trusts, 2020)し、毎年800万トン以上のプラスチックが海に流れ込んでいます。海中のプラスチックの量は2050年までには魚の量を上回る(重量ベース)計算とされています。

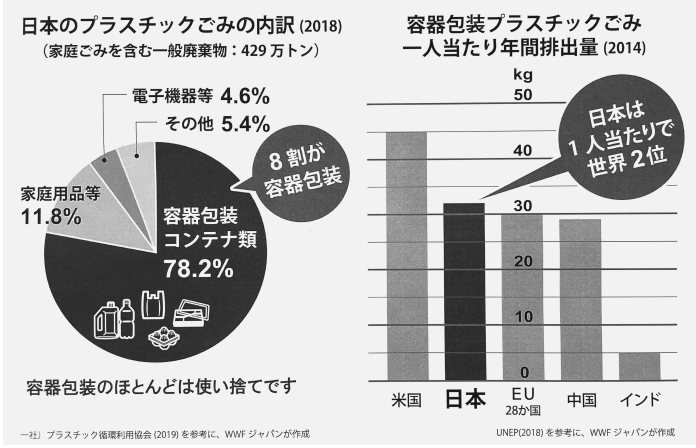
川や海に流れたプラスチックは
マイクロプラスチックに…

「マイクロプラスチック」という言葉を知ったとき、捨てるプラスチックごみが川に流れたり風に飛ばされたりして海に流れ着き、紫



荒川河口近くの護岸にたまるマイクロプラスチック
(写真:容器包装の3Rを進める全国ネットワーク)

【図2】プラスチックごみのほとんどが使い捨て

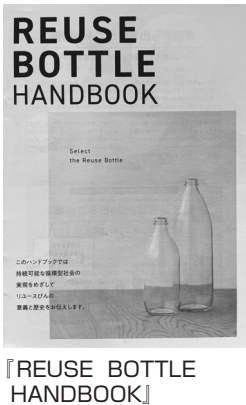


外線により劣化し、波で削られて細かくなってしまった直径5mm以下のものを指します。それを、魚や海鳥などがエサと一緒に食べてしまいます。東京農工大学の高田秀重教授が東京湾で釣ったカタクチイワシ64尾を調査したところ80%の腹わたからマイクロプラスチックが検出されました。

「グリーンシステム」は
難しい

今回の「グリーンシステム学習会」には、「生活クラブ埼玉」大宮支部の組合員がYouTubeで「生活(クラブ)編集室」を開設して、Rびんの情報を広く発信している活動報告もありました。エスコープ大阪の環境委員会でも昨年度、Rびんの動画を作成してホームページやFacebookで公開しています。今年度の新たな取り組みとして、エスコープ大阪の加入時にこれまで配布してきた「グリーンシステムビギナースガイド」に加え、「グリーンシステム賛同意思表明」の提出も一年間を通じて呼びかけています。

また、2022年1月を「Rびん推進月間」とし、加入後1年未満の組合員を対象に「REUSE BOTTLE HANDBOOK」(写真)を配付して、地域委員会が電話で丁寧の説明する取り組みをすすめます。組合員になってからできるだけ早い段階にグリーンシステムに取り組み意義を伝え、賛同する組合員の輪を広げ、利用と回収率アップにつなげることで、循環型社会を実現したいと思っています。



「REUSE BOTTLE HANDBOOK」

せつけん運動ネットワーク

せつけん運動ネットワーク 全国交流集会

9月4日(土)
オンライン開催

環境担当理事
山路 登葉



2021年のシャボン玉
月間ポスター

2年ぶりに全国の仲間と つながりました！

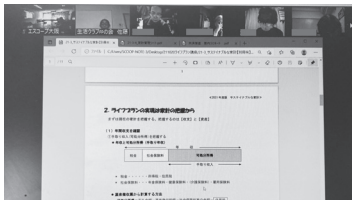
合成洗剤による水環境の悪化が社会問題化する中、1981年に「せつけん運動ネットワーク」(旧 協同組合石けん運動連絡会)が設立し、1988年から全国交流集会(シャボン玉フォーラム)を開催していましたが、コロナ禍で2年続けて開催中止となりました。今年度はオンラインで開催され、176名が参加しました。

初めに「NPO法人ダイオキシンの環境ホルモン対策国民会議」代表の中下裕子弁護士より、「有害化学物質のない未来へ」『環境安全基本法』の制定を求めて」と題した基調報告がありました。胎児や子ども、化学物質に脆弱な人への配慮に関わる法整備の必要性についての内容でした。また、せつけん運動ネットワーク

の会員団体である「生活クラブ北海道」、「生協あいコープみやぎ」、「グリーンコープ共同体」からの活動報告もありました。興味深かったのは、生活クラブ北海道の報告でした。香害問題に関連した活動報告で、自治体に根気強く働きかけて、香害に関する啓発用ポスターの掲示が実現したというものでした。

せつけん運動ネットワークは生協や漁協、NPO法人など現在50の会員団体からなり、せつけんを入り口に、未来の子ども達のために豊かな環境を残せるよう、せつけんの利用を広げていくための活動を続け、有害化学物質を使わない社会を目指しています。化学物質が引き起こす問題が増え続ける中、全国の仲間の活動を参考に、行政を巻き込みながら、化学物質削減のための取り組みを今後すすめていきたいと思っています。

安心して暮らし続けられるように 「サステイナブル(持続可能)な 家計」をめざそう！



「NPO法人Wco. F Pの会」の佐藤さんを講師に迎え、『サステイナブルな家計』をテーマにオンライン開催し、3名が参加しました。

テキストと作業シート(我が家の金融資産一覧表、我が家のバランスシート、加入保険一覧表、我が家の保障一覧表、ライフイベント表)を見ながら、暮

らしのチェック方法を説明してもらいました。次にそれらを踏まえて、キャッシュフロー表の使い方を教えてもらい、これからの暮らしに活用していくことを学びました。キャッシュフロー表とは、収入(可処分所得)と支出を見込み、貯蓄残高の推移を予測、資金(キャッシュ)の流れ(フロー)を把握する表で、これを作成することで、将来の収支状況や貯蓄残高を中長期的に予想でき、安心して生活し続けることができます。参加者からは、「子育て期にキャッ

大阪市南・中河内地域準備会

福祉コミュニティ

10月22日(金)
住吉区民センター

大阪市南・中河内地域準備会
担当理事 吉田 正美

大阪市南・中河内地域準備会



「共助による地域づくり」を 一緒に考える

に、登録制で毎月1回集まるコミュニティづくりを10月よりすすめています。そのひとつ「福祉コミュニティ」では、「わが街マップづくりを通して『共助による社会づくり』を一緒に考えよう」というテーマで、大阪市内で組合員が1番多い住吉区のマップづくりをすすめています。

まずは、自助・互助・共助・公助クイズをし、私たちの暮らしの中でどのようなすけあいのしくみがあるのか、それぞれの課題などを考えました。豊かに暮らしていくためには、自分自身で努力することも大切です。安心して暮らしていくためには国民の税金

シフロー表を知っていたら、もっと安心して生活できたのではと、残念に思った。ぜひ自分の子どもたちや周りの若い人たちに知ってほしい。伝えていきたい。「人生何が起るかかわからないので、長期的な計画を否定しては、今思うと家計、貯蓄など計画、見直しすべきだったと反省している。これから老後に向けてやりっぱなしの生活をし、リセットしていきたい」「ライフプラン講座は、1回だけでなく、何回聞いても思い出したり新たな情報を得たり、役立つのでまた参加したい」との感想がありました。

佐藤さんからは、「間違った不安と安心でお金をムダにしている。ムダをなくすにはお金の流れを知った上で本当に支出が必要なのかチェックが大事。

などによって支えあう公助も欠かせません。さらに豊かに暮らしていくためには、近隣に暮らす人たちが一緒に取り組む互助や共助のしくみが必要になります。エスコープ大阪では、このお互いさまの関係で成り立つ共助によるたすけあいをすすめていきたいと考えています。エコロ制度もそのしくみのひとつです。

参加された組合員と住吉区はどんな所か、またどんな街にしたいかについて意見交換をしました。住吉区内には、高齢化や空き地化がすすんでいる所もあれば、マンションが増えていく所もあり、庶民的で活気のある所もあつたり、学生が多く住んでいる所もあるということがわかりました。これから、この地域に必要なものを自分たちで作りたいなら何が良いか、また少し先の未来を想定してどんな街づくりをしたいかなどを話し合い、マップを完成させたいと思います。

ライフプランを考えるうえで、お金は大切なもの。お金の心配をせずに安心して生きるため、お金のことを家族で話し合う習慣をつけましょう」と、まとめの言葉がありました。

講座の最後に地域委員会から、エスコープ大阪のたすけあいのしくみ、生活クラブの共済について説明しました。私もさつそく作業シートを完成させ、日々の暮らしを大切にしながら無駄使いせず、将来も安心してずっと生活していけるように『サステイナブル(持続可能)な家計』をめざしていこうと思いました。そして、共済というしくみを多くの組合員に理解、活用してもらいように呼びかけることも大事だと思いました。

シフロー表を知っていたら、もっと安心して生活できたのではと、残念に思った。ぜひ自分の子どもたちや周りの若い人たちに知ってほしい。伝えていきたい。「人生何が起るかかわからないので、長期的な計画を否定しては、今思うと家計、貯蓄など計画、見直しすべきだったと反省している。これから老後に向けてやりっぱなしの生活をし、リセットしていきたい」「ライフプラン講座は、1回だけでなく、何回聞いても思い出したり新たな情報を得たり、役立つのでまた参加したい」との感想がありました。

関西W. Co連合会と共に作る 地域社会 vol.4



関西ワーカーズ・コレクティブ連合会
代表 中島 紀子さん

今回は、関西ワーカーズ・コレクティブ連合会(以下、連合会)の2021年度の活動基本方針のひとつ「ワーカーズ・コレクティブ共済(所得保障共済)」の加入を増やす活動に取り組みます」についてお話を伺いました。

法人格のない任意団体のため、労災保険の対象にならないワーカーズもあり、ワーカーズで働く人たちが安心して働くことができるように、「ワーカーズ・コレクティブ共済」が誕生しました。法人格を持つていても、労災や他の保障と重複して加入し給付を受けることができます。

ワーカー同士のたすけあいの共済なので、団体や仕事の内容、ワーカーへの理解もあり、信用してもらっている点は強い点です。持病があっても、年齢に関係なく加入でき、申請も簡単。難しい書類作成などが不要で、申請から給付までがスムーズ

今年、自身でも身体に及ぼす影響を調べて知識を増やされたそうです。生産者交流会では鶏の飼料を手取ることで、配合内容と臭いが一般飼料と大きく違うことを実感し、今でも一般飼料の臭いが記憶に残っているとのこと。

紹介します!!
うちの地域の
組合員さんです



加入のきっかけは 「夫の一言」が あった！

若杉 加奈子さん
[泉北ニュータウン地域]

「うつぶる」の紙面モニター経験もある若杉さんがエスコープ大阪に加入したのは、新婚生活を始めたある日のご主人からの一言がきっかけでした。「スーパーで買った豚肉のにおいが気になるから、実家と同じ生協の豚肉がいい」と言われ、お姑さんにエスコープ大阪を教えてもらったそうです。

「ご家族も増えて食べ盛りの二人のお子さんの子育てに忙しい中、趣味の手芸や朝食に欠かせないパンを手作りされています。好きな消費材は『バランスバナナ』『豚肉』『竜おつまみ』『旬菜セット』です。『食べ続けたい消費材だから定期登録をしています』と笑顔が素敵な組合員さんです。



聞き手 泉北ニュータウン地域理事
前田 美佐代

ズです。ワーカーの高齢化もあり、病気になる人や仕事にケガをする人も多くなっていますが、病気で休業した時は働いた場合の6割分が保障され、傷害保障も1日目から給付金が支払われるなど手厚い内容となっています。給付を受けたワーカーからはとても高い評価を受けており、申請する人も増えています。毎年連合会では、ワーカーが安心して長く働き続けられる環境作りの一環として、「ワーカーズ・コレクティブ共済(株)」から講師を招いて、新しいワーカーを中心にまだ加入していないワーカー向けに学習会をおこなっています。連合会の加入者は2021年3月末で59名でしたが、9月現在92名となっています。2020年より、社会保障が適用されない生活クラブ組合員Ⅱエスコープ大阪の組合員も加入できるようになりました。働く人たちのたすけあいの輪を広げていきましょう。



第6回 理事会報告 <11月10日>

【9月度決算報告】

- 供給高 2億2,438万円(前年同月比103.6%)
- 組合員数 18,945名(前月比ー44名)
- 一人当たりの出資金 87,182円

【10月の放射能検査結果】

10月は連合消費材736検体、関西消費材8検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【協議事項】

- ①地域会計処理について
- ②街づくり夢基金の監事選出
- ③2021年度ピーク時トマト取り組みまとめ
- ④2021年度温州みかんシーズン予約取り組みまとめ
- ⑤Rびん1月利用キャンペーンについて
- ⑥1月Rびん推進月間取り組み
- ⑦エコロ専門委員会設置について
- ⑧2021サステナブルフェスまとめ
- ⑨組合員拡大活動交流集会への参加
- ⑩関西ワーカーズ・コレクティブ連合会への賛助拠出
- ⑪河内長野・大阪狭山地域からの提案
- ⑫南河内地域からの提案

【報告承認事項】

- ①L's選定品目の利用点検結果と今後の対応方法
- ②エスコープ大阪まつり2022の会場の確保について



エスコープ大阪 Rびん回収率 <10月実績>

2021年度はRびん85%以上の回収を達成しよう！食べるカタログ・びん本体のマークが目印です。

	供給	回収	回収率
10月	14,357本	9,991本	70%
4～10月	87,288本	63,419本	73%

10月はRびんの利用がたくさんありました。返却が追い付いていません。使ったら返してね。

編集後記

使ったら返す。単にそれだけのこと。でも100%にならない回収率。その月に組合員が利用した(=組合員のもとに届いた)Rびんの数と、その月に生協に返却されてきたRびんの数で回収率を算出しているため、いつもスッキリしない。そこが難しいところ。でもみんなが「使ったら返す」をすれば100%になる…近づくはず。周知徹底しかありません。「組合員で知らない人はいない」ことをめざして活動は続きます。(〇)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪
〒590-0151 堺市南区小代727
TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022
<https://s-osaka.seikatsuclub.coop/>

「『六ヶ所再処理工場』に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク」(略称:阻止ネット)主催

「核燃マネーに依存しない 地域の未来を考える学習会」報告

開催日:9月18日(土) オンライン開催

環境担当理事 大崎 宏子

破綻した再処理政策の ツケは消費者に

講師のおひとりである伴 英幸さん(原子力資料情報室「共同代表」)から「核燃料サイクルの問題点について」と題して講演がありました。

核燃料サイクルとは、原子力発電所から出る使用済み核燃料を化学的に処理してプルトニウムを取り出し、ウランと混ぜてMOXと呼ばれる燃料を作り、これをまた原子力発電に使う(プルサーマル)サイクルのことを言います。この核燃料サイクルに必要な施設は原子力発電所、中間貯蔵施設、再処理工場です。政府はこれらの施設を青森県の六ヶ所村に集中させ、建設しています。

核燃料サイクルを確立するため政府は1985年、福井県にMOX燃料を使用して発電に使った以上の核燃料を生み出す高速増殖炉「もんじゅ」を稼働させましたが、計画は破綻。2016年に廃炉が正式決定しました。プルサーマルは高速増殖炉の実用化までの核燃料の有効利用という位置づけでしたが、

もんじゅの破綻により再処理の意義が喪失し、再処理政策は事実上破綻したのです。それにも関わらず「使用済燃料再処理機構」設立で拠出金は発生し続け、その使いつづしの責任は誰も取らず、ツケは消費者に回ってくるという話を聞き、唖然としました。「私たちにできるのは原子力発電による電気を使わないということだ」と話されました。

「脱原発」と「再生可能エネルギーへの転換」をすすめよう

もうひとりの講師、茅野恒秀さん(信州大学人文学部准教授)からは、「核燃マネーに依存しない地域の未来を考える」と題して講演があり、六ヶ所村のこれまでの経過や、核燃料サイクルの関連施設の受け入れを決めるまでの村民の葛藤と現状など、村民の意識調査をもとに話されました。

原子力に不安を持っている住民もいるが、雇用があることで地元を離れずに済む、一人当たりの平均所得も県内トップであるなど、核燃マネーの存在の大きさは事実、たいうのです。しかし生まれた時から

開発・原燃(日本原燃株式会社)が存在する若い世代が核燃マネーに依存しない故郷の魅力づくりの動きを始めているという報告を聞きました。海、山、川など故郷の魅力を生かし、地域の自立に向けた取り組みとして特産の長芋を使った焼酎や地元産木材の木のおもちの生産、風力発電事業も誕生しているとのこと。「核燃マネーに依存しない地元主導の自立的経営を歩もうとしている」という話を聞き、頼もしく思うと同時に明るい未来を感じました。

最後に、グリーンコープ共同代表理事の熊野さんからグリーンコープが現在行っている「託送料金認可取り消し訴訟」について、中間報告がありました。

生活クラブは、グリーンコープ共同体を含む4つの呼びかけ団体と共に、「ストップ再処理」を掲げて2007年より阻止ネットの活動を続けています。東日本大震災を機に「脱原発」と「再生可能エネルギーへの転換」を活動目的に加え、豊かな自然、食べ物、そして生命を守るための運動をこれからもすすめていきます。

おたよりネット



「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

224号1面「協同組合連帯で気候危機などの課題に立ち向かう」を読んで

紙面モニター Mさん

みかん栽培に雨量などの天候の変化が大きなマイナス要因になっていることを再認識しました。そしてそれより「後継者不足が最も大きな問題」とありましたが、不足するのはやはり日本の政治が農業を大切にしていないことが背景にあるのでしょうか。

225号3面「活動エリア内に作る10万人の組合員と生産者の持続可能な関係を目指して」を読んで

紙面モニター Aさん

この記事を拝読するまで、関西圏でこの様な取り組みをされているの知りませんでした。生産者と消費者が対等に話し合い持続可能な生産と消費をすすめるところから、様々な取り組みをされていると知りました。目標にFEC自給ネットワークの具現化があることを意識して、カタログを見ていこうと思います。

キリトリ

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
227号(2021.12.13)